

令和5年度 秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和6年2月27日(火) 午後1時30分～午後3時50分
開 場	小合地区コミュニティセンター・大ホール
出席者	秋葉区自治協議会委員：23名 (欠席6名) 事務局：学校支援課指導主事 秋葉区教育支援センター所長・指導主事 秋葉区役所：14名(地域総務課長 他) 傍聴者：2名
議 事	1 説明 「新潟市の中学生のための地域活動・文化活動について」 2 質疑応答
<会議録>	
司 会	それでは次第に基づきまして進めさせていただきます。「新潟市の中学生のための地域活動・文化活動について、教育委員会学校支援課・高見主事から説明をお願いします。
学校支援課	新潟市教育委員会学校支援課の高見と申します。 本日、こういう自治協議会の貴重な会に説明のお時間いただきまして、大変ありがとうございます。秋葉区には、秋口にもそれぞれの競技団体の方や文化団体の皆さんから集まって頂きまして、勉強会ということで、新潟市ではこういう方向ですという辺りのお話をさせて頂き、また参加された皆さんからこれはどうなんだ、あれはこんなふうにできるんじゃないか、など活発なご意見を頂きまして、大変熱心にこの件に関しまして協議または話し合い等々、進めて頂いているな、というふうに変にありがたく感じているところです。今、表題を見て「おや、と思われた方がいらっしゃるかと思いますが、令和6年度に向けまして事業の名称を「新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動」から、国が使っている文言の「中学生のための地域クラブ活動」という大きな一つの言葉にまとめまして、スポーツも文化も、今ほどお話にありましたが、部活といいますと学校教育が大きく関わってきているところではあったのですが、この部活から、地域であったり、専門家の方であったり、そういった方達から子供達が学んだり、教えてもらったり、そういった機会を作っていくというところで、今・準備を進めてきていたところです。 本日ですが、最初こちらの動画の方を皆さんから見て頂きたいなというふうに思っております。こちらの方ですが、これまでに意識調査ということで、新潟市内の中学生と小学生の5・6年生保護者の方にアンケートを取らせて頂きました。アンケートを答えて頂くにも何の情報もないと答えようもないという辺りから、この簡単な説明動画をまず見ていただいて、それでアンケートにお答え頂きたいと作ってきたものです。新潟市のホームページにも出ております。また、お子様がいる方が、家で家族と一緒に見たという方もいますと思いますが、まずは動画で新潟市の方向について御覧いただければと思います。その後、私の方で補足の

	<p>説明をさせて頂く流れで進めてまいりたいと思います。</p> <p>よろしくお願い致します。</p>
	(動画 視聴)
学校支援課	<p>内容は、小学生・中学校が見て理解が出来るようにと、いうことでしたので、少しばかり大人向けの表現とは違ったかもしれませんが、動画をいつでも見られるという状況にして、繰り返し理解を深めて頂きたいと考えています。</p> <p>それでは、次に今の動画の中身で触れてこなかった部分の補足説明や、実際の令和6年度の動きについて私の方から説明させて頂きたいと思います。</p> <p>生徒自身のやりたいという活動を何とか支えていきたいという部分が、一番大きなものとなっているというのは変わっていません。昨年度もお話しさせて頂きましたが、そこは変わっていないという事でお聞き頂ければと思います。</p> <p>人口の減少は新潟市だけでなく、日本全体の問題です。何らかの対策を取らなければ、当然人口は減少します。そこで、今から少しずつその準備を進めて行くというのが、今回の地域クラブ活動の準備にあたります。学校によっては、今はこの選択の仕方しかないという学校も実はあるわけです。</p> <p>学校の職員数も決まっており、部活も「全員が必ず入りなさい」という仕組みではありませんので、男子は軟式野球か卓球・女子は卓球かバレーボールからしか選択することができないという学校も実際にあります。大きい学校は、いくつも部活動があり、子供の数も多く、地域クラブ化は早いのではないかと、という声も聞かれます。しかし、国が現在進めていることもありますし、新潟市の現状を考えた時に今から動くべきだという考えに至っているところです。</p> <p>休日の地域移行については、国から通知がありました。新潟市では地域クラブ活動の推進協議会というものを立ち上げて、有識者の方々とも一緒に検討を進めてきています。ただ、休日の地域移行だけは進めた場合、いろんな弊害が出てくるという事が分かってきたのも事実です。子供達が休日・平日のクラブ活動に出るというような辺りで、顧問と指導者、両方の指導者がいるというケースもあります。実際、現在テストケースで行っているところも、このような実態が生まれています。又、地域クラブにした場合、どこにどんなクラブ活動があるかが分からないケース。学校の先生も、自分は顧問としてその部活動を見るのか、それとも地域の指導者となるのであれば、どのタイミングで切り替えたらいいのか。又、今の地域クラブということで、グループはそのまま、例えば、中学校のバスケットボール部が、バスケットボールクラブとして動き始めたとしても、人数が減ってきて、5人いないとチームが組めない。そういったことから、外部に指導者を移すだけでは、いずれ持続の可能性はなくなる場合もあるわけで、こういう課題が出てくるのが分かりました。この辺りを踏まえて、現在新潟市の中での部活動の改革推進機関の大きな流れの中にあると捉えています。そこで、休日だけではなく、平日も視野に入れた地域クラブ活動への移行ということ、平日の教職員の勤務時間の管理という辺りも含めながら検討を進めて行く必要があるという考えに至ったところです。</p> <p>令和5年度～8年度に中学校に入学する子供達が途中で部活動が縮小されたり、</p>

地域クラブとなる。又は最初から地域クラブを選ぶという選択を迫られるようになるわけです。この4月に入学する子供達が3年生になる時が令和8年で、国の方針で一つの目途として示している時期です。その為、この時期に大きなしわ寄せが来ないよう、今のうちに子供達が選べるようなもの、又は地域クラブであるなら、こういう活動があるというものを示していきたいと考えているところです。

新潟市として、どんなパターンが実際検討できるかという事で、テストケースを幾つか行ってきました。令和3年・4年・5年と3年経過して、国の実績検証という事で委託を受けながら、モデルケースになれるかどうかという事でテストケースを幾つか走らせてきたことです。それで分かった事は、指導者として入って頂く方は、外部の指導者・競技団体の協会の方・その他、一般社団法人などのパターンがあることです。学校では、競技経験のない教員が指導者となるケースも今迄ありましたが、テストケースで立ち上がってくる団体では、専門家による指導を子供達が受ける事が出来る為、本物に触れる事でとても有意義だったと感じています。そして、様々な運営形態があることも見えてきました。

地域の方が団体を組織・運営しているケース・協会や連盟が市内の中学生を対象として活動を進めているところもあります。それから、保護者と共同運営というような、一つ一つの部活動の一つ一つの保護者が運営するクラブチームという扱いで、団体運営を進めてきているところもあります。

現在、9団体27クラブでテストケースを行っています。活動に参加している子供達からは、他校の生徒と一緒に活動出来て良い。あるいは大会に出場し、入賞したいという感想。一方では、レクリエーション的な活動をしたいなど、楽しみながらしたいという声もありました。地域の指導者として、学校の先生でない方が大勢関わっています。この地域クラブ活動を通して、子供達の成長や向上を実感して、自分達もありがたい・嬉しいというような声が聞かれています。一方で、怪我への対応の不安や、集金額をどのように決めていったらいいかという辺りの悩みもあると聞いています。又、この取組に参加している子供達の保護者からは、専門家から教えてもらっているの、上達が見に見えて分かり、本気で取組むようになった。又、他校との関りがあってよい・地域の方に教えてもらう事で、そこに感謝の気持ちが生まれているという声が聞かれています。

指導者が複数名いる団体からは、指導者によって教える内容が違い、子供が混乱している場面もあるという課題も挙げられています。学校の先生からは、生徒同士の多様な関わりが生まれていて、そして教えた人が教え、教わりたい子が教わるというWin-Win(ウィン・ウィン)の関係が出来ているという声が聞かれています。

活動に参加した子供達や保護者に行ったアンケートの結果は、「満足している」と回答している中学生が多くいました。その中でも技能体力の向上や専門的な事を学べるという回答が多くありました。保護者からは、この地域クラブ活動に参加させて満足しているという回答が多く上げられました。又、「満足していない」という回答は「0」でした。そして、満足している、又は子供の活動なので子供に任せるといった回答が多く集まりました。結果として、我が子やチーム全体

の技能や体力が向上したとみている方が大勢いたというのが分かりました。

国は休日からとしています。新潟市の現時点の方針は、地域クラブ活動が動き出せるように、令和8年度4月から平日の16時45分以降とし、又、休日の部活動は行わない方向で準備を進めています。

現在は、学校の部活動に入っている子供達が、大変多い現状です。その他、文化施設主催・競技団体主催といった活動、及び地域のクラブチーム・民間のクラブチームに入っている子供達もいます。これを令和8年4月を目途に、文化・競技団体、地域・民間クラブに少しずつシフトしていきます。学校でも、今ある団体をそのまま保護者が運営する、又は地域の方が運営をしながら指導にはいるといった様な、今ある学校の部活動が由来となる団体に切り替わっていく場合も出てくると思います。これについては、学校の規模や子供達の様々な活動への取組状況に大きく左右される部分ではありますが、学校でもどういう団体が必要なのかという検討を進めてもらっています。

小学生を対象に行ったアンケート結果は、色々な習い事をしている子供も大勢いますが、こんな事をしてみたいと答えた回答資料には、バトミントン・卓球の人气が高く、地域にあるバトミントン教室や卓球クラブに通っているお子さんが、既に大勢います。そして、「どの様に取り組みたい」という質問には、「楽しんで活動に参加したい」・「うまくなりたい」・「強くなりたい」との回答の割合が載っており、種目や活動によってその志向性が変わってくるが見えてきました。

各競技団体や文化芸術活動の団体に国の委託事業、又は市の補助事業を活用し、一緒に子供達の活動の場を作り上げていってもらえないか、お願いに回らせてもらう準備をしているところです。様々な団体が立ち上がって、子供達の受入れ態勢を一緒に構築していただくという事を、現在目指しているところです。

中学生の為の地域クラブ活動の今後の動きについてご説明したいと思います。私達が考えているパターンとしては、①既存の団体から手を挙げて頂く・②新設の団体や教室・クラブチーム・③教職員が関わって実施する事を主体として新設するなど、大きく3つに分けられます。

学校の先生の中にも部活動の指導にあたり、競技や活動の指導に携わりたいと思っている方が大勢います。そういった教職員が、自分自身が指導者となる。又は、地域の指導者の一員となって子供達の地域クラブ活動の指導に当たる様なケース。この辺を私達の実施主体のパターン例として、考えているところです。活動場所については、現在の部活動で使っている5時～7時の枠、又は、休日にジュニア専用枠として、開放出来る様に準備を進めて行きたいと思っています。令和6年・7年は、部活動がまだ活発に行われている学校もありますので、部活動由来でスライドした形の地域クラブ、今後新規利用することが決まっている地域クラブについて、この時間帯枠を優先的に使ってもらいたいと思っています。これらの活動を全て体育館に割り当てたとしても、空いている時間帯の情報については、市で吸い上げて、市民の地域クラブ活動・中学生が参加する地域のクラブ活動の団体に示していきたいと考えています。

	<p>立ち上げの準備をしている団体が多くあります。現在、約10の新規団体から問い合わせをいただいています。国の委託事業とお話しをしましたが、新潟市としての補助事業を考えています。団体規約を作る、又は研修を受けてもらうという条件を満たした実施主体に対して、指導者の謝金の一部を補助できるような仕組みを検討しているところです。ホームページや市報新潟を通じて市民の方々に情報提供できる様にしていきたいと思ひます。</p> <p>新潟市教育委員会学校支援課の傘下に地域クラブ活動推進室という新たな室を設けましたので、立ち上げに協力できるような準備を進めていきたいと思ひているところです。又、団体リストとは別に指導者リストについて、新潟市で作っていきたく思ひます。団体やチームを持っていなくても、声がかかれば指導に当たることができるという方々がいる事が、聞き取りで分かってきました。今後は学校施設や公共施設での場所が活動の場となっていくと思ひます。又、柔軟に設定出来る活動、そして複数選択も可能だという辺りが大きく変わってくるのではないかと思ひています。参加者も今迄は学校単位の部活動で、学校ごとにエントリーが多かったのですが、学校の枠を超えて、やりたい種目・活動に集まってそこでの活動が出来る方向に変わっていくと考えています。学校の教職員の中にも指導者として今後も関わる方もいますが、地域の指導者・専門家の方からは是非協力頂きたいと考えているところです。</p> <p>団体リストについては、団体名・活動場所や日数のほかに、団体の目標・指向性・月謝・連絡先等、子供達が見て・探して・活動を考えるという団体リストを作っていこうと考えています。その為には、学校と行政と地域の方達の協力なくしてはできません。皆さん方からも是非ご協力いただきながら進めてまいりたいと思ひております。どうぞよろしくお願ひ致します。</p>
司 会	<p>高見主事、ありがとう御座います。部活動の地域移行について、全ての自治体が同時進行で取り組んでいます。新潟市も地域の方とコンセンサスを作りながら、緩やかに進めていくつもりですが、地域によってトーンの強さ、動きの速い・遅いがあります。部活動の本質は生徒指導です。人格形成であり、社会性の涵養であったりするという事で、誰でも出来るものではありません。受皿作りの部分で、学校の縦割りをこれからは地域横割りで行いますが、自校式や複数校式、指導者についてどうクリアしていくのか。基本的にヨーロッパみたいにユースワーカー・ユースワーク・ユースサービスの様に完全地域主体なのか、あるいは学校主体で、平日は基本的に学校の先生・休日は地域の方にお願ひするのか。その辺りはまだ見得ないというところですが、今日お集まりの委員の皆様から、質問・意見・感想がありましたら発言をお願ひします。</p> <p>では、木村委員お願ひします。</p>
木村委員	<p>小須戸コミュニティ協議会の木村です。試行で満足度が非常に高いという事なので問題はないと思ひましたが、幾つか分からないところがありましたので、教えて下さい。地域クラブ活動は平日5日間、休日は行わないと言われましたが、資料を見ると休日にジュニア専用枠と書かれていて、休日も行ってもよいのか疑問に思ひました。それと、平日5日間について時間制限に触れられませんでした。</p>

	<p>団体によって、夜遅くまでやってもいいのかどうか、子供の家庭学習の時間と地域における部活動のとの兼ね合いはどうするのかを危惧したので、平日・休日の活動の制限をどの程度想定されているのかが分かりませんでした。私を知る範囲では、学校の部活動の場合は中体連に入り、勝ち上がって全国大会に行くというイメージでした。地域クラブ活動の場合は全国大会がどのように繋がっていくのでしょうか。学校単位でなくても認められるのか疑問です。</p>
司 会	<p>今の質問に答えてもらってよいですか。</p>
学校支援課	<p>はい、ご質問頂きましてありがとうございました。令和8年度以降、学校の部活動は16時45分以降、平日は完全に行わないという事になります。これは部活動に限らず、学校の様々な活動があったとしても16時45分迄、教員の勤務時間内で全ての活動を行うという考え方です。学校の部活動がなくなる学校もあります。16時に「さようなら」をした後、16時45分までで、時間帯としては短いですが、部活動やサークル活動など16時45分までの中で、各校で必要性を判断して活動を行っていくケースが考えられます。16時45分以降と休日について、地域クラブ活動として使える時間枠を用意していこうと推進室で準備を進めています。</p>
木村委員	<p>休日もよいのですか。</p>
学校支援課	<p>休日も一日学校の施設は開いていることになります。そこに地域クラブ活動の取組を進めて行くという事が可能になるようにジュニア専用枠を考えているところです。令和8年度以降、このジュニア専用枠に部活動が入ってくることは今後なくなっていきます。それからどの位の時間枠があるのかという質問については、部活動ガイドラインが国から示されていて、平日は1日・休日は1日、2日はオフを作りましょうとなっています。部活動であっても、地域クラブ活動であっても子供達の健康面から出てきている設定ですので、この一定時間という事になりますと、地域クラブ活動でも同様になっていくかと思えます。又、時間については平日2時間・休日3時間というように、スポーツ庁から出ているガイドラインで決まっています。土日続けて大会に参加しているというケースがありますが、平日を1日なくす。あるいは翌週の土日を両方ともなくすといった、月単位で休みの時間を設定していくという様に、新潟市の場合はオンとオフのシーズンを作る。それでも、土日が繋がる時がある場合は、月の中で2日は土日をどこかで「お休みにしましょう」というルールで現在進んでいます。</p> <p>部活動と地域クラブ活動が並行して行われる令和6年・7年にかけても、その辺りは子供達の健康面からきちんと守ってもらうというところを考えています。中体連については、参加は学校単位で部活動としての参加というものが原則となっておりました。昨年辺りから種目によってクラブ単位での参加を認めている種目も出始めました。ただ、部活でなくて地域クラブ活動で参加する場合、指導者免許の条件が様々ついています。種目ごとの細則というところで、こういったクラブチームなら参加可能だという方向になってきていて、少しずつハードルは下がってきていると聞いています。半面、競技人口の少ない種目については、中体連の全国大会については取りやめていくとの報道もありました。種目によって様々な検討を進めているところです。</p>

	<p>中体連は部活動がベースになる全国大会ですが、それぞれの競技や団体で主催される全国大会にシフトしていく団体が多いと聞いています。又、吹奏楽連盟の行っているコンクールも学校単位ではなく、クラブチームでの参加を認めていく方向で動いていると聞いています。</p>
司 会	木村委員、よろしいですか。
木村委員	はい、よろしいです。
司 会	それでは次に荒井委員、お願いします。
荒井委員	<p>文化振興協会の荒井でございます。今日のご説明ありがとうございました。</p> <p>運動部のイメージは出ていますが、文科系についてはあまり具体的なものが現れていません。合唱や吹奏楽を考えると、今ご説明のあったものに当てはめていった場合に、具体的なイメージがなかなか湧いてきません。文化施設が主催する活動について、どのようにお考えになっていますか。それから、指導者のリストがなければ移行も大変だろうと思います。市が指導者のリストを集めて、運営するのですか。それとも、指導者のリストを運用する主体を地域に置くというお考えでしょうか。</p> <p>文科系のクラブ活動の今後の在り方については、具体的にお考えをお聞かせ頂きたいというのが私の質問の趣旨で御座います。よろしくお願い致します。</p>
司 会	お願いします。
学校支援課	<p>2つの中学校で吹奏楽部がテストケースとして、一緒に動いていました。</p> <p>指導者の確保がスポーツと比べて探すのが難しいというところです。今年も文化芸術というところで、幾つかの団体さんの方に我々と一緒にテストケースで走ってもらえないかという事で、お願いしているところです。</p> <p>茶道の連盟さん、それと美術・吹奏楽、もう一つあるのですが、そういった文化団体にこちらからお願いして、一緒にやってもらえないかという事で案内をさせてもらっていたところです。これは言い訳ではないのですが、スポーツですと市のスポーツ協会という大きな窓口がありまして、そこから・・・流してもらうというような方法でできたのですが。現在、新潟市の文化政策課とも一緒になっているのですが、中々文化の方で一つの大きく束ねる団体さんがあるという訳ではないので。それで、もう一つずつの活動団体さんに入っているところで、そこに文化政策課から「国の委託事業があるのだけど、新潟市と一緒に走ってこないか」、という依頼をさせてもらっているところです。</p> <p>指導者が見つげにくいという辺り、先ほどお話しした通りなのですが、そういった点も踏まえながら、ただ団体として受け入れるのは非常に難しい。</p> <p>指導者であれば何とかあるのではないかと、というように私達もそれぞれの協会や連盟さんから声をかけて頂きましたので、まずは団体というよりは、文化の方は指導者リストを私達としても作って充実させていくところが、入り口なのではないかと思っているところです。私達の方でも勿論リストは作ります。それをオープンにする事がいいのかという点も含めて、悩みの種でして、団体としては、子供達が直接来るためには、連絡先を表示する事を了解してもらって、載せていこうとは思っているのですが、指導者の個人的な情報やリストになってしま</p>

	うとかなりの情報として、外に出てしまう事になるので、私達の方で指導者リストは持ちながら、いろんな団体さんから指導者の要望があった時に、その候補となる方をマッチング出来るかどうかという辺りで、指導者リストを作って充実させていきたいと、考えているところです。
司 会	荒井委員、いかがでしょうか。
荒井委員	はい。
司 会	結局、多様性をうたいながら、この先心配になってくるのが、やはり部活の統廃合です。人が集まるところ、指導者のいるところは残るけれども、そうでないところは無くなってしまおうという、その矛盾をどうクリアするのかというのが課題になるのかと思います。
荒井委員	すみません。
司 会	はい、それでは、荒井委員。
荒井委員	合唱なんかはどういうように考えているのですか。
学校支援課	合唱は、勿論同じように新潟市に幾つかの合唱のクラブがあるのもお聞きしています。そういった団体さんから、先程のスポーツと同じ様に団体リストに「うち載ります。」という様に手を挙げて頂ければ、リストに載せてもらい、一緒に進めていけたらと思っています。今回も既に1つの団体さんから、西蒲区の合唱グループですが、新潟市のそのリストに載るにはどうしたらいいですかという問い合わせを頂いています。ですから、スポーツと同じ様にその団体さん、公民館とおっしゃったと思うのですが、そこを会場にして定期的に活動しているようなのです。そこに中学生を招き入れて、一緒に合唱クラブとして作ってきたいというお話でした。それならば、是非私達の出す方針について検討して頂きたいという事で、現在連絡を取り合っているところです。同じ様に、他の団体さんから手を挙げて貰うのも待ちたいと思いますし、学校の職員、合唱部はそんなに多くないのです。しかし、その中で、顧問として自分が指導に入る教員がどれくらいかという点も、今後の調査なのかと思っているところです。
司 会	では、渡邊委員。
渡邊委員	渡邊です。詳しくお話しして頂きありがとうございます御座いました。私からは、子供の目線で2点懸念があります。1点は経済面です。相対的貧困がうたわれている中で、例えばですが、ヤングケアラーの子が探す手続きが出来るのか、支払が出来るのかといった不安があります。それが出来なかった場合、この体験が狭まるという事が見通されます。もう1点は、健康です。WHOでも心と体、社会的な繋がりとといった面での健康が大事であると言われていますが、思春期になった時、じゃあ部活動に行かなかったら家で何をするか、それはゲームにハマりますよね。ゲーム依存症は、WHOでも指摘されています。又、思春期ですと精神疾患にかかる割合も大きいのです。ですので、部活動が無くなった場合、あるいは民間で担がわれなかった場合を考えると、すごく不安があります。そうした時に、仕組みを地域で。先程主語がどこなのかというお話がありましたが、恐らく地域でこれから作っていかねばいけない仕組みなのだと思うのですが、経済面での仕組みがまだまだ出来ていないだろうというところで、例えばですが、

	<p>1人分500円を子供が1回受ける事の出来るクーポンを子供達に年間10回分配るとその分の費用を地域の住民が1人1,000円出して下さいと、そうした場合、例えば5人そのサポーターがいれば5,000円になりますから、1人分をサポート出来ます。あとは登録団体については、登録する事によって広報にもなりますので登録団体自体が10,000円を払って登録して頂く。このように経済の面でも地域で回る様な仕組みにしていかないと、子供達に不利益が彼られるのではないかなと、少し思っています。以上です。</p>
司 会	<p>高見さん、今のご指摘お願い出来ますか。</p>
学校支援課	<p>はい、答えられる範囲で答えたいと思います。</p> <p>まず、経済面というところですが、やはり目指すものといえますか、具体的な名前は出しませんが、やはりサッカーのクラブチームで本当に上を目指すんだ、J1を目指したいという団体は、非常に高額なお金がかかるという事を聞いています。又、地域にある団体でも年間で考えると、かなり高額になるクラブがあると聞いております。勿論新潟市が雇ったり、登録させたりというものではないので、そういった規定や、「こういう条件がありますよ」と言うのは、安全な活動が出来るというところに重きを置いているものです。</p> <p>ちょっと話がずれるのですが、指導者にとって必要な事は、やはり中学生を相手にして活動の指導に立つんだというところを指導者の方達からは理解してもらう必要があるのかなと思っています。その為に今、オンデマンド研修を作っていくところではあるんですが、そういった辺りを指導者の方からは理解してもらって、活動に参加・立ち上げをお願いしたいと思っています。あと、各団体ごとのライセンスや、その種目特有の審判の免許など、そういったものは、各団体で必要な団体が取ればいいと思っています。</p> <p>何よりも安心・安全に取り組めるところから、私達もどんな研修が必要か、という辺りを考えているところです。つまり新潟市として、そんな高級なものを用意するのではないという大原則があるとお考え下さい。これから立ち上がっていく団体さんにも、なるべく安価な額での月謝を設定してほしいと、働きかけていく方向で考えています。どこまでが安価かと言われると、はっきりした金額はありませんが、ただ営利企業であったとしても、非営利部門の事業として立ち上げてほしいです。あくまでも、子供達が活動するお手伝いをしてほしいんだというところは、各団体さんに投げかけていきたいと思っています。又、先程様々な支援の仕方があるのではないかという件については、大変参考になりましたので、実現するかどうかは別に置きまして、我々も検討していきたいと思っています。</p> <p>あと、子供達の健康面ですが、私自身もこれまで、小学校の体育教員でしたので、非常に心配しています。そういった意味からも、子供達に運動の機会を一番に考えたいと思うのですが、やはり体育不足もそうですが、運動への意欲の問題もあります。学校体育がどれくらい担えるのかということもありますが、そういった点も、今後1つの大事なポイントになると思っています。思春期の活動という事で、中学校の校長先生も子供達が帰宅してからどうするのかと、お話しされていました。今回の国から令和2年に出てきた話ですが、子供達が自分の事</p>

	<p>をしっかりと考えて、主体的に選べるという点が重要なのかと考えています。</p> <p>自分の将来を考えた時に、どんな活動をしたいとか、どういう大人になりたいから、自分は何をするのか、という心の育ちというのでしょうか、それを選択して自己決定していくという部分も、子供達が上手に使えるような指導の仕方も、学校の方には投げかけていく必要があるのかなと考えています。</p>
司 会	<p>やはり経済格差の問題はある訳ですよ。子供食堂がこれだけ増えているという状況です。そうすると、やはり部活をやらない帰宅部の子供が増えていく可能性があるのではないかと考えていて、例えば学校給食や学用品の様に、就学費援助のような形での補助金を市や行政が出すというような検討はされていますか。</p>
学校支援課	<p>すみません、何か・・・立場にある・・・補助金の話なのですが、今は、どういった補助の仕方があるかと教育委員会でも、スポーツ振興課や文化政策課と一緒に検討を進めてきたところです。そこで私達がたどり着いた1つが、どの団体にも均等に出来る補助というものがまずどこか、そこを少しサポートする事で、受益者負担を少しでも軽減出来る様な点を現在考えています。直接的な受益者負担というところでの今の視野は、そこまではなかったですけど、団体への補助が立ち上げ支援になるのと同時に、集める金額を少しでも軽減出来るようにというところから、市の補助事業の方を3月後半に向けて整備させていくというところで考えていたところです。</p>
司 会	<p>渡邊委員、よろしいですか。</p>
渡邊委員	<p>はい、結構です。</p>
司 会	<p>それでは、木村委員お願いします。</p>
木村委員	<p>今地域には、中学の部活の他に地域のスポーツ少年団みたいのが幾つかありますよね。剣道とか柔道とか、様々あります。それと今お話している地域クラブ活動というのは、別な訳ですよ。多分、私の頭の中でお聞きしているのは、中学校でやっていた部活に、その地域のスポーツ少年団なんかの指導者から入ってもらってもいいし、あるいはその活動の一部に部活を代替えするような仕組みがあってもいいしと、そういう事かと思っていました。そうすると、中学校の部活に、今の部活以外のスポーツ少年団がやっている活動について、例えば剣道の団体は夜9時までやりますという事があってもいいわけです。それから、日曜日に我々は活動しますというのは、スポーツ少年団みたいな組織については、ここで触れていられないと、それはそれとして、今まで通りの活動で良いという事でしょうか。</p>
学校支援課	<p>スポーツ少年団の今後について、何か活動の仕組みが変わるという事はないです。ただ現在、私達がスポーツ少年団に働きかけているのも事実です。スポーツ少年団の方に、勿論既に小学生も中学生もジュニアとして受け入れているスポーツ少年団さんもあります。そういったところから手を挙げてもらって、内は今まで通り中学生を受け入れるから、5時から7時までの枠で使わせて下さいとか、いいですよ、引き受けますよという様に言って下さってもいいかなと思いますし、現在小学生しか引き受けていないスポーツ少年団さんもあります。そういった団体さんに、「これから中学生も一緒に受入可能か検討頂けませんか」と言う</p>

	<p>お願いを、この3月にスポーツ協会を通じて各競技団体ごとに回らせてもらおうと、考えているところです。</p>
司 会	<p>よろしいですか。</p>
木村委員	<p>はい。</p>
司 会	<p>他はいかがでしょうか。それでは坂口さん、お願いします。</p>
坂口委員	<p>阿賀浦コミュニティ協議会、坂口と申します。よろしく申し上げます。 お話を聞きまして、私の理解しているところでよろしいかどうかという、1つ確認なんです、学校が4時までで終了して、今度4時30分からジュニア専用枠に変わるところで、学校側とそれとクラブ活動は、そこでもう切れるから、学校側としては、もう関係なくなるというような理解でよろしいのでしょうか。</p>
学校支援課	<p>例えば学校の顧問が指導者となるケースの場合もあり得ると思っています。その場合、いろんなケースがあるのかなと思うのですが、例えば4時から4時45分まで部活として、例えばバスケットボールを行ったとして、4時45分で部活は終了になるんですが、例えば保護者会でその教員を指導者として依頼するという事で、引き続きそのまんま活動が続いて、6時まで活動が行われるという事の中にはあるのかなと思います。</p>
坂口委員	<p>それは、先生の就業時間が終わっているわけなので、それ以降は今度副業になるわけですね。そうした場合に、先生の副業が認められるという理解になるんですが、その場合に、例えば先程学校側の方の指導者リストにその先生方も入っているというところで、補助金の関係からすると団体にそういう補助金を設けるという事で、個人に対してもその補助金の制度が今度作られるという理解でもいいわけでしょうか。</p>
学校支援課	<p>その団体の指導者が1人しかいなくて、運営しているのもその人間だということになると、個人に入っている様に見えますが、その団体として地域クラブ活動の動きとして取り組みが行われているというようであれば、私達はそちらの方に補助金として指導者謝礼金の一部を補助するという形で、今考えています。</p>
坂口委員	<p>そうすると、個人でやった場合には、そういった雑務が多くなりますよね。だから、どこかの団体に所属して、その団体に補助金を出すような形で、やって行きたいという事なんですか。</p>
学校支援課	<p>そういうふうに団体に所属して、その指導者の1人として動いていくケースもあると思いますし、自分が団体を立ち上げる事もあると思います。仲間は今のところいないけれども、自分が指導するし、運営もするという事で出来上がった、例えば「クラブ〇〇」という様なものがあれば、これは1つの団体になるという事です。</p>
坂口委員	<p>そうすると、今迄やってきている学習塾の形みたいだと理解すればいいのでしょうか。そういうところに、皆さん先生は登録されているのだと思うのですが、必要がない場合には派遣しないと思うのです。そうすると、その学習塾の仲間を作っておいて、そこに皆さん登録して下さいと、そこから要請があった時だけ派遣しますといった理解でいけばいいのですか。</p>
学校支援課	<p>団体リストは団体リストとして、色んな団体名が既に指導者もいる、場所も</p>

	<p>決まっ要る、こういう設定でやりますよと、団体の一覧リストになると思っています。そちらの方は、広く子供達にも、市民の皆さんにも見える様にしていこうと思っています。それとは別で、例えば協会や連盟に所属されている方で、ご自身がどこかのチームの監督とかしているわけではないんだけど、どこからか呼ばれれば指導者として行って手伝いますという方達の指導者リストは、指導者リストの方で別に作っていき、私達の方で管理していこうと思っています。</p>
坂口委員	<p>中々、塾みたいな形でお金がかかる個人でやられる方も、先生は副業すれば、そこからお金が発生するみたいなイメージで考えると、中々うまくいかないのかなと思いましたので、その辺りの説明をお願いします。</p>
学校支援課	<p>先程の経済面とも関係してくると思うのですが、現在私のところに国の委託事業と一緒にテストケースとしてやりたいというふうに、先程、幾つもの団体から連絡が来ているとお話ししました。その時に、今現在ちなみにどれぐらいの月謝集めていますかと、一応聞いてはいるのです。今、国の委託、国からも指導者にお金は払われるべきとまでは言いませんが、スポーツをするにも、文化活動するにも、習うにはお金がかかります。指導者の謝金、部活動指導員という事で国が設定しているのが、1時間・1,800円という金額が1つ目安になると思ってはいるのです。</p> <p>今、テストケースに手を挙げている団体さんに、ちなみに指導者の謝金は幾らぐらい何ですかとお聞きすると、ボランティアですという団体さんも実はあります。今後、国の委託金が入りながら実際にやるとすると、それじゃあどうするかというのは・・・、まだ考える事はあるんですが、、ボランティアで指導しているので、今後もその方向は変わらないだろうと話している団体さんもありまして、勿論リストに載った時に、会費は無料という団体と、会費が毎月・1,000円ですという団体さんと選べるようにはなるとは思いますが、選びやすさやその活動の団体さんの特徴といった、子供達にその活動に慣れ親しんでもらいたいだけだから、今迄通りボランティアとしてお金をは取らないという団体さんが、中にはいらっしゃるのではないかと考えています。</p>
坂口委員	<p>その辺をはっきり分けさせておかないといけないのかな、というのが1つと、先程言われていましたジュニア専用枠の時間の使い方、それぞれがそれぞれに任せられるというような形になって、学校と切り離されたような感じになってしまうので、そうすると、そのへんの管理のやり方をしっかりしておかないと難しいのかなという事で、ちょっと団体と個人という事で質問させて頂きました。</p> <p>ありがとう御座いました。</p>
司 会	<p>ありがとう御座います。そもそも働き方改革・教師の労働環境改善から始まって、やはり国からの指示、国から下りてきた政策なので、自治体が先程言った指導者の問題であるとか、受皿の問題が見通しが立たないまま見切り発車せざるを得ないというところで、非常に見えにくいところがあるという事で、委員の皆様からのご質問があったと思いますが、他はいかがでしょう。</p> <p>我々地域団体、例えばコミュニティ協議会とか、自治協議会がその指導者・受皿担えるかというのは、すごく関心のあるところです。ただ、今の子供は難しい</p>

	<p>です。セキュリティーとか、何かあると親が出る。蚊に刺されるものなら大騒ぎです。そういったところで、非常に難しいところがあるのかとは思いますが、他に、いかがでしょうか。</p> <p>では、佐々木さん</p>
佐々木委員	<p>佐々木です。今の会長のご意見からお願いします。先程少し考えていた事なのですが、保護者の立場から言うと、先程言っていた統廃合で、例えばクラブ活動が学校で出来ない場合の交通手段について何ですが、子供自身が自転車や徒歩で行ける場合はいいのですが、新潟は雨も降りますし、予期も降ります。その様な場合、働く保護者にとって送迎が可能かどうかという点が大きな懸念となると思います。中学生になりますと、土日に大会や試合など色んな所へ行く事がありますが、土日ならば何とか夫婦で駆使して送迎出来ましたが、平日となるとそこが、中々難しいのではないかと思います。ご意見お聞かせ下さい。</p>
司 会	<p>高見さん、送迎についてお願いします。</p>
学校支援課	<p>ありがとうございます。新潟の実態、そして区の実態というのも実はあるのかと思っています。この準備を進めるにあたって、色んな自治体の情報を聞いています。どんなふうに行っているのか、どの様に集めるのか、などその辺りを聞きますが、やはり市のサイズ感や広がり方というのでしょうか、新潟市がやはり他にないぐらいの広さがある中で、8区にも分かれているという点が、実は他の市町村や他の政令市にはない特徴になっているのではないかと思います。</p> <p>全国どこでも同じ様に、どうやったらその地域で地域活動が定着していけるかという辺りを作っている最中だと思っておりますが、では新潟市の課題となるという所で、今の佐々木さんのお話している所に繋がるのだと感じています。</p> <p>まずどれぐらいのものが出来るかという事については、今・私達も作っている最中ですのではっきりとした回答は言えませんが、ただ子供達が部活を選べる以上の団体が子供達の身近にあるように、何とかならないか、という所で現在様々な団体に声をかけているのが実情です。この後どれくらいまで声掛けが出来るかというのがありますが、現在、私達が分かってきた数として、新潟市内に文化活動・スポーツ活動する様々な団体が、少なくとも1,200団体あると把握しています。勿論、そこに漏れている団体を数えるとそれ以上あると思います。勿論、その団体全てが立ち上がってくれるという事はないと思いますが、その沢山の団体から、ご理解を頂き、遠くまで行かなくても色んな活動団体があるという所まで目指すというのを、今一番考えているという点をお知りおき頂ければと思います。ただ、子供達がそこまで行くには難しいという所も実態としてあるんだろうと思っていますが、実は他の区からも、そういった送迎の問題や活動の終了後の迎いの時間が午後6時・7時だったら行けそうだが、活動に向かう時の補助はどうなのだろうか、という辺りのお話を伺っています。これについては、今後の課題だと思っています。どんな対応出来るかと言うと、即答は出来ないのですが、今後の課題として私達も追いかけていきたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p>
司 会	<p>ありがとうございます。</p>

	<p>続いて佐藤さん、お願いします。</p>
佐藤委員	<p>先程の指導者リストですが、これを例えばボランティアの場合、しかも個人として指導者として登録するのでなくて、実施主体といいますか、そのように扱われるという場合です。スポーツに限る事ではありませんが、もし事故が起きた場合、その補償についてやはり1人でその人が実施主体ですよ、団体ですよと言われても、何かあった場合に自分で責任が取れないと感じた場合に、その様な形で個人登録する人がどれくらい見込まれるかという事です。そうしますと、先程坂口委員が話をした様に大きな固まり、そういう団体でないと、中々指導者として登録をしないという事が危惧されます。子供達にとって色々なパターンがあるので、自分に合ったスポーツ・文化活動が出来るという、これは大変良い事ではありますが、やはり学習塾化といいますか、突然、大きな企業が行う様な事態になりはしないかという事があります。その辺り、何かあった場合にそういった個人的にボランティア意識で指導した方には、その事で何か補助といいますか、そういった事を考えているのかどうか、お聞きしたいと思います。</p>
司 会	<p>高見さん、コメント御座いますでしょうか。</p>
学校支援課	<p>ありがとうございます。事故があったらという所は、令和3年度・4年度行ってきたテストケースの団体さんからも、先程も表示に出ていたのですが、やはり指導者として子供達の事故があった場合という所の不安や感触といいますか、そういった点は拭えないものと、実際の声として上がっています。秋葉区の前回の勉強会の時にも、もし事故が起こった時の責任問題はどうなるんだろうという様な質問があったかと思えます。その時私は、勿論団体規約に事故等々の扱いについての一文があるんだとお答えしましたが、その時質問された方が、規約に書かれていても裁判になれば負けるというふうにお答えしたと思えますが、まず、そうなる何と何も出来なくなってしまうという様な事だったので、私の方でもロイヤーの方に確認する必要があるなと思っていたところです。ただ、お話しにも出ていた通り、現在の段階では事故や怪我があった場合については、勿論応急措置はその場ですとか、その後に保護者に引き継ぐとかという様な団体規約というもので、それぞれ保護者・子供・指導者が納得した規約としてその会に入会しているはずですので、今、その下で動いているというのが現状だというふうにもまず1つ考えているところです。</p> <p>それともう1つ、大きな方の団体が有利に動くのではないかというのは、1つ考えられる部分だというように思います。大きな民間クラブチームが、営利ではなく非営利だとしても、例えばバスを回すとか、そういう事で子供達を集める方法を考えるケースもあるのかなと、いうふうに思います。それは、やはりその団体が持っている強みというのでしょうか、子供達に負担のかからない範囲で自分達がやれる企業努力として動いているのであれば、私達がやめてくれと言う事ではないのかなと思っています。地域貢献活動として、この地域クラブ活動に参加する場合は勤務とみなすから、午後3時に退勤してよいという企業が新潟県内にもある様に聞いております。きっと令和8年の時に、また状況がどうなっているか、さらに10年後どうなっているかなど、その点の予想は申し訳ないですが、立</p>

	<p>たないのです。でも、その大きな団体であったとしても、どのような企業努力で子供達の活動をサポートしてもらえるかという辺りは、私達としては協力要請とか果たしていきたいところですが、そこだけ何かやるという事はないのですが、手があれば同様にリストに載せるという点は一緒かなと思っています。</p>
司 会	<p>ありがとうございます。他に御座いますでしょうか。</p> <p>これ本当に、学校教育の一大改革だと思っていて、やはり懸念・不安・疑問は拭えないなというのが正直ありますが、ただもう戻れないという事なんです。これは、もう前に進めていくしかない。いかにそれを実りあるもの、これは今がチャンスと捉えられるわけです。コミュニティ・地域の教育力を高めていく、そんなきっかけにもなる。だから、NSDに出来ない事を、我々秋葉区のコミュニティ協議会・自治協議会で出していました。例えば神楽をやるとか、もち麦料理研究会を立ち上げるとか、勿論それは子供主体ですが、子供から声があれば、ニーズがあればという話ですけど、鉄道研究会を作るとか、そうしたこの地域を盛り上げていくきっかけにもなるという事ですので、色々課題はあろうかと思いますが、色々研究を重ね、試行錯誤を重ねていき、実りあるものにしていきたいなという思いで御座います。</p> <p>高見さん、次のステージに上がった時点で、またいらして下さい。</p>
学校支援課	<p>またお邪魔します。連絡しながら、これはどうだ、あれはどうだとやっていくのが一番の大事な部分かなと思っています。いつでもお声がけ下さい。</p>
司 会	<p>引き続きよろしくお願い致します。ありがとうございます。御座いました。</p>